

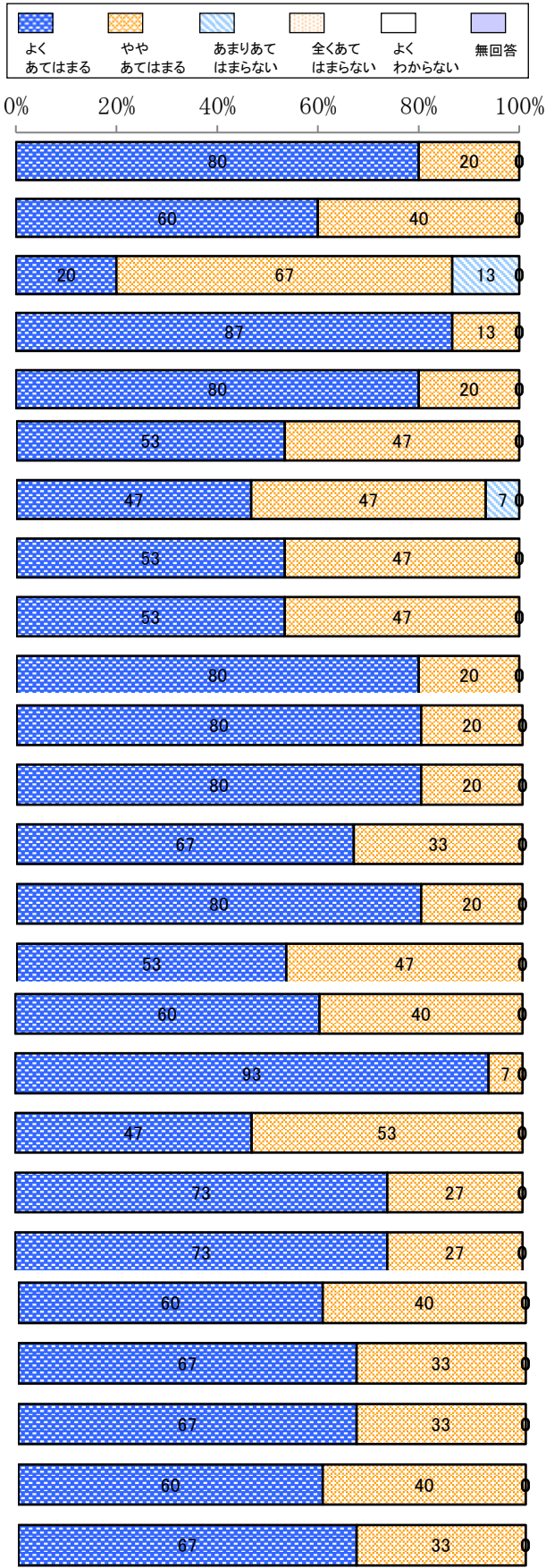
令和6年度『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区立大門小学校

様式4

		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
				A	B	C	D	よく分からない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	43 27	43 65	10 3	1 1	2 5	0 0	
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	72 46	23 50	3 4	1 0	1 0	0 0	
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	51 25	39 63	9 8	1 1	0 4	0 0	
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	43 44	40 49	15 4	1 1	2 3	0 0	
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	67 38	25 59	6 3	1 0	1 1	0 0	
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	57 31	36 54	6 5	1 0	0 9	0 0	
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	64 18	28 57	4 8	2 1	3 15	0 0	
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	54 25	27 56	15 9	3 1	2 9	0 0	
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	74 34	20 50	4 8	1 0	1 8	0 0	
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	54 34	32 41	10 12	2 2	2 9	0 0	
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	70 24	25 55	4 4	0 1	1 17	0 0	
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	49 27	34 54	12 3	2 1	2 15	0 0	
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	51 20	31 47	10 5	5 1	3 27	0 0	
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	80 63	15 36	3 1	0 0	1 1	0 0	
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	57 48	32 41	8 4	1 0	1 7	0 0	
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	51 30	25 56	8 8	1 2	15 4	0 0	
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	63 40	31 50	3 4	1 1	3 5	0 0	
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	61 46	22 51	12 2	2 1	4 0	0 0	
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	48 32	31 47	11 1	7 0	2 20	0 0	
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	54 21	30 53	4 4	1 1	11 21	0 0	
各学校の特色ある教育	21	児童の学ぶ意欲の向上	児童が主体的に学習に取り組むできるよう（対話中心の授業、ICT機器や学校図書館の活用、自己研修）指導を行っている。	42 26	40 63	13 8	2 1	3 3	0 0	
	22	規範意識の向上	周りに流されず、自ら判断して望ましい言動ができるように、継続した指導を行っている。	36 21	47 61	10 12	2 1	5 5	0 0	
	23	集団活動の充実	自己の役割を自覚し、仲間と協力できるよう集団活動の充実を図っている。	52 23	37 70	5 4	1 0	5 4	0 0	
	24	安全意識の向上	危険を察知し、回避し、児童が安全な生活を送ることができるように指導を行っている。	59 19	32 67	5 7	1 1	3 6	0 0	
	25	体験活動等の充実	地域資源（人、場所、もの）の活用や体験型の学習を取り入れた指導を行っている。	49 28	32 57	11 9	2 1	6 5	0 0	

無効票を除く（％）



無効票を除く（％）

学校の自己評価（考察）	
学校だより、ホームページ、スクリレ等を活用し教育目標を周知することができた。児童、保護者にも概ね浸透しているといえる。	
児童、保護者、教職員いずれも肯定的回答が9割を超える結果である。経年比較においても、児童の肯定的回答の割合が3年連続して上昇している。	
児童と教職員の回答に少しの乖離が見られる。教員が目指す児童の姿にまだ到達していないと考えられる。引き続き、粘り強い生活指導と家庭との連携の強化が求められる。	
児童の肯定的回答は依然として8割を超えている。経年比較では、保護者の肯定的回答が前年度より8.2ポイントの上昇が見られる。教職員の対応が、児童や保護者に認められていると考える。	
肯定的回答が9割前後で推移していることから、健康・安全教育の成果がよく表れていると考える。今後は家庭・地域と連携を強化して、防災教育の充実を図っていく必要がある。	
経年比較では、児童の肯定的回答が2.8ポイント伸びた。教員の授業改善や個別指導の成果がよく表れている。また、校内研究の取組も成果に繋がっていると考ええる。	
児童と教職員の肯定的回答が9割を超えているのに対して、保護者は7割となっている。また、保護者の「よく分からない」の回答は2割弱となっているので、積極的に情報を発信する必要がある。	
児童、保護者ともに肯定的回答が前年度を下回る結果となった。家庭学習の内容の精選、家庭への啓発などさらなる工夫が必要である。	
児童の肯定的回答が9割超となり、前年度比較しても6.3ポイントと大幅に上昇した。ICT機器を意図的、計画的に活用した成果が表れていると考える。	
教職員の肯定的回答が100%となった。依然として保護者の肯定的回答は7割5分となり、家読の取組、家庭への啓発、授業公開等で学校図書館の活用や読書活動の周知を継続していく必要がある。	
年間を通して人権教育に取組むことがよい成果に繋がっている。保護者の評価が前年度より少し低下しているので、改善を図っていく必要がある。	
教職員と児童、保護者の評価に乖離が見られる。道徳授業公開講座の充実化や積極的な情報発信に努めていきたい。また、保護者会等で規範意識についての話題を上げるなど、家庭との連携も深めていきたい。	
児童の評価は毎年向上の傾向が見られる。一方で保護者の「よく分からない」の回答は年々増加していく傾向が見られるので、教育相談の啓発を積極的に行っていく。	
児童の肯定的回答が9割となった。学校生活を通しての、自己有用感の向上、安定した学級経営が結果に繋がっていると考ええる。引き続き、学校経営の重点として活動の充実を図っていく。	
児童の肯定的回答が3.5ポイント減少した。児童の実態、要望に即した活動が展開できるよう、教育課程の改善を図っていく。	
紙面で情報を発信していく機会が今年度より減少したこともあり、児童の「よく分からない」の評価が微増した。ICT機器を活用しての情報伝達や掲示の工夫をするなど、児童に届くための方策を考えていきたい。	
経年比較で児童の肯定的評価が毎年度増加し、今年度は9割を超える結果となった。また、教職員の評価と相関関係が見られるので、児童、保護者が安心して相談できる体制の構築に努めていく。	
今年度は授業公開の時間を増加した結果、保護者の評価が向上した。今後も、開かれた学校を目指し、積極的な公開を展開していきたい。	
児童、保護者、教職員、3者全て評価の大幅な向上が見られた。来年度は100周年と関係付けをしながら、PTA、地域と連携を密に図っていく。	
保護者の評価について、毎年の改善傾向は見られるが、依然として「よく分からない」の回答が多い。学校関係者評価の結果、各種アンケートを踏まえた学校側の見解等を幅広く情報発信していく必要がある。	
今年度から取入れた評価であるが、児童の肯定的回答が9割弱であった。校内研究と関連付けした項目であるとともに、学校として今後も大切にしていきたい項目である。来年度は9割を超えられるよう授業改善に取り組んでいきたい。	
保護者の肯定的回答が7.4ポイントと大幅に増加した。教職員が粘り強く、組織的に指導を行っている成果が表れていると考える。しかし、実態と照らして合わせると課題が多いのも現状である。家庭、地域の協力を得ながら改善を図っていく。	
昨年度と変わらず、概ね高評価となっている。特別活動、キャリア教育、きょうだい班活動の充実を図り、児童一人ひとりが関わり合いを大切にできる環境を整えていく。	
児童、教職員は昨年度と同様な結果となったが、保護者は改善傾向が見られた。安全指導、減災・防災教育の取組も充実させていきたい。	
体験活動の機会を増やすだけでなく、一つ一つの活動に価値付けを確実に行っていきたい。また、本校、地域の特徴を生かしながら継続的に取組んでいく。	